

熊取町
第4次障がい者計画及び
第7期障がい福祉計画・
第3期障がい児福祉計画策定のための
相談支援事業所への調査
結果報告書

令和5年7月
熊取町

I. 調査の概要

1 調査目的

本調査は、「熊取町第4次障がい者計画及び熊取町第7期障がい福祉計画・熊取町第3期障がい児福祉計画」の策定に向け、相談支援事業者から、課題に感じていることや現場の実態等についてお聞きし、計画策定や施策推進に役立てるための基礎資料とさせていただきます。

2 調査対象者と実施方法

調査対象と実施数	自立支援協議会相談支援部会に所属する11事業所
調査方法	メールでの実施
調査期間	令和5年6月

3 報告書を見る際の注意

- ・主語や目的語が判断しにくい回答の文章には、回答の内容が変わらない程度に、補足の語句や文章を追加しています。

Ⅱ. 相談支援事業所への調査結果

問1 貴事業所のことについておたずねします。

貴事業所の 支援対象者 (複数回答)	1	身体障がい者	…8事業所
	2	知的障がい者	…9事業所
	3	精神障がい者	…11事業所
	4	障がい児	…9事業所
	5	重症心身障がい者	…3事業所
	6	介護保険認定者	…回答した事業所なし
	7	その他	…回答した事業所なし

問2 事業を行っていくうえで、困っていることや課題と考えることはありますか。(例：担い手の減少や高齢化、リーダーの育成、活動場所、資金面のことなど・・・)

- ①担い手の減少や高齢化等により、人手不足となっています。また、個々の仕事量と単価が見合わない。そのため、採算が取れず赤字が続いています。相談支援事業単体では資金面が厳しい。
- ②居宅介護や移動支援、短期入所の事業所が少ないのでサービスをうまく提供できない。
- ③児童を対象としたサービスでは、保育園や学校と連携が取りづらい。

問3 地域での障がい者に対する理解の普及・推進について、どのように感じていますか。望まれることや課題等についてご記入ください。

- ④高齢者ほど障がい者への偏見が大きい、また、精神障がい者への偏見は年代に関係なく多くある。障がいとはいえ、種別や病名によって特性や症状が全く違うので、その難しさもあるかと思われるため、福祉に携わる人以外の方にも障がいの種別や病名毎に勉強会や研修を気軽に受けれるようにしたら良いと思う。
- ⑤子どもの気になる行動、他の子と違う成長（個人差の出る幼少期の成長等）＝障がいの疑いになっているように感じることもある。しかし、以前と変わらず家族や親族からの目があり、相談したいがしにくい、出来ないといった子育ての悩みもあるように思う。また、保護者が子どもをサービスに預けることが多くなり、自分の子のことがよくわからないといった現象も見られるように思う。
- ⑥商工会と自立支援協議会の共同で、雇用促進や就労定着を目指す取り組みができないか。

問4 障がいのある人が日常生活や社会参加をする上で困っていることはどのようなことですか。相談者の方の中から聞こえることなどをご記入ください。

- ⑦障がいについての知識や特性についての理解者がいないことや、障がい福祉サービスの種類や質が偏っている。(就労支援は沢山の事業所がある(特に就労継続支援B型事業所)、居宅介護はヘルパーが少なく希望時間に利用できない、障がい者支援施設は空きが無くすぐに入所できない等)
- ⑧就労先でご本人の障がいの特性を理解してくれなく、体調を崩して休むと本人が悪いようにとられてしまう。また、住み替えや転職の時に障がい者である事で断られることがある。
- ⑨コミュニティバスの一方行の運行が不便だし、公共交通機関が少ないことや、歩道がない道が多い。
- ⑩家族の障がい理解不足や社会資源に対する偏見によって、家族の価値観を押し付けられる。また、相談員もご利用者に我々の価値観を押し付けてしまっていないかと反省することがある。
- ⑪自分の意思を伝える場が少ない(自分の意思を伝えられるスキルや環境が育っていない)ことや、支援者中心の支援を提供されることもあり、自分らしい生活を送りづらいこともある。

問5 熊取町は、障がいのある人にとって、どの程度「住みやすいまち」だとお感じになりますか。次の選択肢のうち1つに○を付けて、そのように回答された理由や今後の課題を、その下の枠内にご記入ください。

- | | | |
|---|--------------------|------------|
| 1 | どちらかといえば住みやすいまちである | …回答した事業所なし |
| 2 | どちらともいえない | …7事業所 |
| 3 | どちらかといえば住みにくいまちである | …4事業所 |

【理由や今後の課題などを記入】

◆どちらともいえない

- ⑫地理的な問題、交通手段の確保はしにくい。
- ⑬他の地域の市町村では、利用者が使いたいサービスに対して柔軟に対応してくれるが、熊取町は障がいサービスの支給決定について厳格である。
- ⑭一人ひとりの状況を把握しやすく、必要なサービスや資源につながりやすい。また、住民の状態も把握されており、サービスにつなげるだけでなく、その人の支援の必要性やQOL（生活の質）なども捉えている。

◆どちらかといえば住みにくいまちである

- ⑮大きなショッピングモールがない。
- ⑯一部の事務について担当が子ども家庭センターとなり、役場に行っても直接話ができない。また、障がい者の方が気軽に寄れる場所が地域にない。
- ⑰相談員が本人の困りごとをいかに役所の窓口対応の方に伝えることができるかで変わってくることや、比較的小さい町のため、役場とサービス提供者（事業者）が密に連携を取りやすく、そうした意味でサービス利用者（障がい者）にとって住みやすさを感じる部分があると思う。一方で、医学モデルや家族介護に依拠した支給決定等がなされることが多く、利用者本人からすると住みにくさを感じる部分があると思う。

問6 障がいのある人が日常生活や社会生活を送るうえで、生活しづらさを感じる原因となる障壁（バリア）が取り除かれてきたと思うことがあればご記入ください。

- ⑱ひまわりドームは、バリアフリー化した建物で、プールなど障がい者が使いやすいようになっていると思う。
- ⑲熊取はかつては閉鎖的な町で、障がい者を家から出さない、いることを隠すなどをしてきたが、よく見かけるようになった。考え方や思想が少しずつ変わってきたように思う。外を歩きやすくなった。
- ⑳住宅街の中にグループホームや就労系施設などが出来、地域の中で共生してきたこと。それにより、当事者が何かあった時に色々なところに発信がしやすくなっている。
- ㉑幼、保育園が障がい児及び支援が必要な児童の受け入れが出来ており、公的機関や私立での活動が出来ることが増えたことや、休日や放課後に、福祉サービスを利用する児童生徒がいることについて、学校でも常識化してきている。

問7 ヤングケアラーや、今後ヤングケアラーとなり得そうな事例や話を見聞きしたことはありますか。あればその内容をご記入ください。

- ㉒幼いころからお手伝いをして、子どもの学業に支障が出る行為が見え隠れしている。
- ㉓母子家庭で母が精神障がい、身体的な持病あり、母の代わりに子どもが食事の買い物や洗濯をしている。親子は仲が良いが、どちらかというとも母が頼りにしており、子どもが依存されているか共依存のように思えるケースがあった。
- ㉔当事者たちは、当たり前で過ごしている。楽しむ機会ややりたいと思う意欲等が育っていないので、感情の五感が小さい。互いの関係が成り立っている。関係性を変えるためにサービスを提供しようとしても理解してもらえない。
- ㉕母が重い統合失調症で、小学校の頃から弟や母の世話、食事、金銭面の世話をしている。
- ㉖母が精神障がいの方で娘（小学生）が一人部屋の片付けはできず、きちんと食事できているのか。
- ㉗親の都合により、重度障がいを持つ兄を一定時間見守る等のケースを聞いたことがある。

問8 このほか、熊取町の障がい福祉の取組について、何かご意見がありましたら、自由にご記入ください。

- ⑳身体介護で共に行う家事が必要な方がいる。
- ㉑障がい福祉への予算が、たくさんあればもっと障がい者の暮らしは向上すると思う。限られた予算で困りごとに順位をつけて提供するしか現状できないのだろうと感じる。障がいにもっと予算を組んでくれるといいなあと思う。
- ㉒基幹相談支援センターや児童発達支援センターの設置、自立支援協議会の運営や活性化について、アドバイザー派遣の活用や、他市町への視察等はどうか。
- ㉓移動支援の柔軟な利用について、検討できないか（施設入所者の利用等）。

第4次障がい者計画及び第7期障がい福祉計画・
第3期障がい児福祉計画策定のための
相談支援事業所への調査結果報告書

発行日 令和5年7月

発行 熊取町 健康福祉部 障がい福祉課 障がい福祉グループ

〒590-0495 大阪府泉南郡熊取町野田1丁目1番1号

電話 072-452-6289
